

平成 27 年度 第 3 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 27 年 11 月 20 日(金)

午前 10 時 00 分～11 時 30 分

会場：防災市民センター 3 階

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから長野市総合計画審議会を開会いたします。

私、企画課の花立と申します。よろしくお願いいたします。

本日の資料は、事前にお送りいたしました、次第と資料を綴じたセットとなります。

資料につきましては、皆さまのお手元に届くのがギリギリのタイミングとなってしまったことをお詫び申し上げます。

本日の会議につきまして、寺内委員、増山委員、塚原委員、本間委員、川北委員からのご欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

それでは三浦会長からあいさつを申し上げます。会長、お願いします。

2 会長あいさつ

(三浦会長)

おはようございます。資料がギリギリということでしたが、私も昨日から出歩いていまして、手にしないまま今日出席しておりますので、何か不手際がありましたらご指導いただきたいと思えます。それで、総合戦略とか総合計画という混乱するような進め方なんです、今回は本来の総合計画作りを皆さんにお諮りしてご審議いただくということでございまして、総合戦略の方はひとまずヒヤリングに入っている段階ということですのでよろしいですね、それをまた合わせていくことになると思えますので、今日は 11 時半くらいまでには終わらせたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に従って進めたいと思えます。では、議事の(1)の総合計画の構成についてということで事務局のほうからご説明いただきたいと思えます。

3 議事

(事務局)

企画課の増田でございます。私のほうから資料に沿いまして説明申し上げます。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

ありがとうございました。総合計画の全体構成、それからワークショップで各分野で議論いただいている中でのポジティブな変化とかネガティブな変化といったような中をどうまとめていくのかというような、まとめ方についてもご説明いただきました。

何か全体的な作り等についてのご質問等ございますでしょうか。

すいません私から、各分野で〇〇のまちというようなキャッチフレーズ的な、少なくとも7つございますが、これを、全体を捉えて資料1ページの2のまちの将来像というところに長野市らしい言葉を作っていく理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

例えば6ページの分野ごとに〇〇のまちというように事務局としてはこんなようなまとめ方でどうかという事で書き表していますので、これにこだわらなければいけない訳ではございませんので、こういう書き方のほうがいいということがありましたら教えていただきたいと思います。私達のほうでは、分野ごとのまとめはこんなような形にしたらどうか、という提案でございます。

(三浦会長)

それは理解しているのですが、7分野があつて更にまち全体として長野市はこういうまちを目指すんだぞという、ある意味決意表明も含めての言葉づくりになると思うのですが、そこはどこで議論されるのでしょうか。

(事務局)

失礼いたしました。7分野合わせた全体の、要するに長野市全体のという話は、このあとのまちの将来像のところで全体を見回していただいて10年後のあるべき姿を考えていただくというような方向にしたらどうかというように考えております。

(三浦会長)

それは、この分野が網羅しているかという議論があるかと思いますが、そういった課題は課題だし、分野ごとにこうしたいというのはあるんだけど、それでも長野市としてはここを目指すんだよというようなことの議論は、ここで皆さんの意見を伺って取りまとめればよいということでございますか。

(事務局)

そのとおりでございます。

(三浦会長)

ありがとうございます。

皆さんのほうでご質問ございますでしょうか。

施策の大綱の様式というか、この作りとしては具体的にはワークショップのほうで詳細が構成の上では後のほうに出てくるのですが、計画としてはこういうのを全部俯瞰した上でまちの将来像というのを先に掲げる書き方にしている、ということでよろしいですね。ありがとうございます。

(藤森委員)

私も同じ事を感じていたのですが、全体の大きな目標があったとしても、それに通じたものを各分野で考えていかなくてはいけないということになるという理解でよろしいのでしょうか。大きなものがあつた上で更にそれぞれの思いが少しずつズレがあつて、こういう言葉が出てきてしまうと、そこに統一性に欠ける部分があるのかなと会長さんのお話を聞いて思ったんですが、その点ご説明いただければと思います。

(事務局)

説明がうまくできず申し訳ございません。

作業手順とも関わってくるのですが、この後、各分野ごとに細かな部分まで話を進めていきます。イメージ的にはそれと同時並行で一番大きな目標を作っていくというような形になります。具体的には細かな部分の作業を進めていきながら、ある程度まとまった段階で、では全体としてはどうなるのかという話を改めてさせていただくということになります。話が前後して申し訳ないのですが、資料の9ページをご覧くださいますと、8ページから他の市町村のまちの将来像についての記述がございます。9ページの一番上の高槻市などは、各分野ごとの考え方をそのまま載せているようなイメージになっております。したがって、一つにまとめたものではなくて、まちの性格、いくつもの性格を持っていますから、その性格を分けた時にはこんなような形になるだろう、というような、この市のまとめ方はこのようにしてある、というものです。

例えば、今までの長野市の方法も複数の将来像を掲げたこともありますが、それは後ほど説明しますが、前回は基本的には一つのフレーズに持っていくという形をとっています。ですから、この9ページで言えばその次の枚方市もそんな形になっていますけども、どんな形でまとめていくかというのを正にこの審議会でご議論いただきたいと思いますが、考え方としてはそんなことができるんだというふうにご理解いただければと思います。

(三浦会長)

全体的な進め方との兼ね合いと、それから計画をどういう作りにするかということとの関連なのですが、今の話ですと同時並行的な所があるということでございます。

それと、ワークショップが7つですけれど、例えばこれ抜けているんじゃないか、とか皆さんお感じになっている分野はございますか。分野の分け方これでいいか、とか、後から意見が出ると事務局困ると思うのですが、今のうちをお願いいたします。

(事務局)

皆さんのほうで作っていただくわけですから、分離統合が必要になる場合には事務局としては構いませんといいますか、むしろそういうふうによってそれで済むのであればそのほうがいいと思います。

(三浦会長)

例えば、スポーツと書いたら教育・文化のほうができるのかとか、単純に言うとそのようなご質問があってもいいのかもしれない。

(長峯委員)

まちの将来像ってことを2分程度ということで考えていましたが、長野市民が誇りを持つことというのがいいんじゃないかなと思っていて、この7つの分野を見た時に、長野市はオリンピックを開催しているので、そういったことでも誇りを持つと思いますが、オリンピックを開催した都市というところに誇りを持つのだとしたら、この7つの分野だとどこに当たるのかな、とウィンタースポーツにもう少し重点当ててもいいのではないかなと思います。

(三浦会長)

多分、特出ししたほうがいいのか、そういうご意見かと思えます。

そういったご意見、この部会のテーマを分けた方がいいとか、どこかと統合した方がいいとか、そういうようなご議論は、部会の方でもご議論いただいているのですか。

(事務局)

例えば、全体を見渡すこの審議会の中で先程いただいたような形で、例えばスポーツを特出しにしたほうがいいのかとか、我々も気にしているのは例えば子どもの関係とかを何かしたほうがいいのかとか、というような、全体を見渡した上でのご議論がまず一つあろうかというふうに思っております。

もう一つは現在それぞれの分野で分かれてご検討いただいておりますが、その細分化された分野の中でご検討いただく中で、やはり同じ様な意見が出てくるのが当然あろうかと思えます。そういった場合には、それぞれの分野の中からの意見、考え方としてもう一度こちらの審議会へフィードバックしていただいて、全体の中で構成を考え

ていくといったような、トップダウンとボトムアップの双方向からこの分野の内容分けを確定していくというような形になっていくのかな、と感じております。

(三浦会長)

将来イメージをどういうまちにしたいのかというのを構想してからいろいろ施策を考えて、最近の会議の進め方でフューチャーセッションとかありまして、今の延長ではなくて、将来の長野市をこうしたいというのを頭に描いた時に何をしてほしい、何をすべきだと、そういうことになろうかと思いますが、現状ではこの7つの括りで作業部会を検討していただいていると、多分このポストイットが増えてきて、どこかとクロスするのがいいとか、たぶん部会のほうでも、そういうご意見が出てくるかと思っておりますので、次回の審議会までにご報告いただければと思います。

この基本的な作りそれから基本構想のところはよろしいでしょうか。

よろしければ第3回目のワークショップがあるということをございますので、そういったことを、またここでご議論いただきたいと思いますと思っております。

続きまして、議事(2)まちの将来像についてのご説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料の7ページ目をご覧くださいと思います。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

まちの将来像について事務局からご説明いただきました。

いろんな考え方、市民のアンケート、前の審議会の委員の方々のご意見等もご説明いただいたわけですが、住んでいる方々のアンケートと御開帳に来られた方のアンケートを見比べてみると面白い差異があるなど思っております。

まちの将来像に関して、委員の皆さまからお考えやキーワード的な言葉でもご提案いただければと思いますが、いかかですか。有澤委員からお一人ずつお願いいたします。

(有澤委員)

よろしく願いいたします。

急な宿題をいただいた子どものように何を答えていいかわからない部分がありますが、ワークショップの中では、ここにあります「災害と安心・安全」ということでワークショップをしているわけですが、それぞれの皆さんからは特に、自助・共助とかあるいはコミュニティが崩れてきている中で支え合いをしていく中でも、それが非常に厳しくなっているという話がでております。そういった中で、10年後の将来像という

話であるわけですが、これからもどんどん右肩上がりです。経済の成長とかということとはなかなか難しいのではないかと、また人口が減っている中で、自然豊かな長野、そして長野市の中で、皆さんから思われているような豊かな自然と緑を大切に、それぞれの人達が支え合いながら共生をしながら自然を大事にし、そして特に緑が荒れてくる中でも、特に第一産業だと思いますが、豊かな自然や緑を大事にして、森林であり農地等を耕作あるいは生産に充てながら生活できるような形をとりつつ、今の地球に優しい循環型の社会を作る、というような形での長野であったらいいのではないかと。そういう中で子どもからお年寄りまで安心して生活ができる地域づくりをするために核家族でない中で家族が共に支え合い、そして地域がそれに伴い地域力を高めながらやっていけるような、それぞれ小さなコミュニティができ、それが繋がって大きな長野市になるというようなイメージであったらいいのかなと思っています。

言葉でうまく言えませんが、豊かな緑に包まれて思いやりがある人と自然が共生するような、長野であったらいいのかなと考えました。

(三浦会長)

ありがとうございました。続きまして、上野委員をお願いします。

(上野委員)

分科会等で今話し合っている部分で一番明確でわかりやすいキーワードは、長野市はもう既に長寿国の長寿県の県都であるという部分が非常に大きいと思います。寿命が長い長寿県、それは現段階で叶っている部分ですが、ここからの10年やこの先を考えた時に延びた寿命のうちのどれだけ現役でいられるか、健康でいられるか、現役で働いていけるのか、ということが叶えられるまちであれば、世の中に“売り”になり、ブランドになり観光でも永住でもキーワードになってくるのではないかと思います。

言葉を探すような作業だと思いますが、言えるのはアンケートでも思いやりとか共生とかいろいろありますが、あまりに抽象的なことを提言されてもボヤッとしている、“ふれあい”というが、それは市政として掲げるようなものではなく、明確に方向性が付けられるようなキーワードが出てくることを望みます。

もう一つ、過去の資料で今までの長野市の流れが、三次だと長野オリンピックの「五輪都市」とか「五輪の感動を」というのが第四次で消えているわけでございます。それで長野市民自身が五輪というものを活かしかねないまま17年18年過ぎているということに問題があるなと思っています部分がありまして、外の人から見ると長野というキーワードが世界に通用するくらい今、外国の方が増えているので、“NAGANO”という「五輪のまち」というキーワードを、ここで取り戻してもいいのではないかと思います。

パルセイロもありますし、ウィンタースポーツも含めてこれから長野市を売っていくのに五輪のあった、日本に3つしかないまちということがイメージを作っていく上で重要なキーワードになると思います。消えてしまっていたこのキーワードを戻すというのもひとつ方向付けとしては重要ではないかと思います。

「長寿」「五輪都市」というのを是非とも入れていただくと方向性が付けられるのではないかと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続きまして、碓井委員お願いします。

(碓井委員)

今お聞きしながら、長野市にあるいろいろな財産、自然とか文化とかを外に売っていくということも大事だと思いますが、まず中にいる私達市民が充実していくことが大事なのかなと思います。それで、長寿県にある長野市ですが私がだんだん年をとっていった時に、これからを託したいのは子どもたちかなと思っています。私が保育の関係者だということもありますが、ヨーロッパ、アメリカ、イギリスいろいろな所で長期的な子どもの教育効果とその後の世界的なデータが発表されています。幼児期に質の高い教育を受けた子どもたちは、認知活動における小学校以降の読み書き等にも高い水準が見られるし、特に算数認識、自己調整力、社会的行動力等にかかなりの優位を示していて、長期的な調査によると、社会の中での離職率も少なくなったり社会的地位、経済力も全て上回っているというデータが世界的に出ているという時に、子どもを育てていくということが、これからの社会に大事なことなんじゃないかと思っています。ただ、個の幼稚園や個の保育園や個の市民がやっても駄目で、長野市全体がそれを支え、核にしながら高齢者、今までの様々な知恵が繋がり合うような知恵を出し合いながら、その核を皆で大事に育てながら将来的には豊かさというものが、安全と健康と教育の豊かさになっていくのではないかなと思うので、安全・健康・教育を英知で繋げていくことが将来の希望になると思います。

もう一つは、せっかくここにある自然を活かさない手はないんじゃないかと思うので、この自然を使いながら、知恵を出し合うということを市民レベルのキーワードにしながら最終的には長野市民で良かったと思えるようになればいいと思っています。

まとめませんが、キーワードは子ども、高齢者、皆で知恵を出し合うということです。

(三浦会長)

ありがとうございました。金井委員お願いします。

(金井委員)

私は、キーワードとして安心とかの項目があったり、アンケートの上位3つをまとめていけるかなと考えています。これがいいかどうかは別として、「人と人、人と自然、思いやり、明るく元気、活力溢れる(まち)、長野」この(まち)については、いらないのかなと、「活力溢れる長野」でいいんじゃないかなと考えてみました。

「人と人」というのは子どもから若者、経済を担っている働き盛りの人、老人、もっ

と言うとこれから生まれてくるであろう赤ちゃん、天国のおじいちゃんおばあちゃん、そういう人たちがみんな繋がっているということです。

「人と自然」というのは、長野の美しい自然を人とのかかわりの中で活かしていく、ということが必要と思います。共生していくということになるとと思いますが、人と自然の共生、というように捉えています。

「思いやり」というのは、アンケートの中にはトップになっていますが、お互いを尊重し合う、お互いを助け合う、お互いを思い合う、他人の利益を考える思いやりという言葉を入れました。

「明るく」というのは、住んでいる人が満足している、または長野に住みたいな、全国、世界から長野に来たいと思われるようなおもてなしができる明るさが必要ということを含めております。

「元気」というのは、そこにいる人たちが元気、企業も元気、長野に来た人にも元気に帰っていただけるような、そういった意味であります。

「活力」というのは、人の活力、組織の活力、企業の活力、地域のつながりの中での活力、というものが十分発揮されているということで、それぞれの言葉を組み合わせただけですが、その中にはこのような大きな思いを含めていいのではないかと思います。

全体的にまとめますと、長野の人たち「やさしいよね、明るいよね、元気だよね、みんないきいきしているよね」というまちづくりができたらいいなと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて白石委員お願いします。

(白石委員)

私も、市民の皆さまが共感して具体的なイメージを持てるキーワードは何かと考えてまいりました。アンケートをやっていただきまして、「思いやり」「豊かさ」「支えあい」「安らぎ」「快適さ」が上位ですが、これを包含する言葉を私なりに考えたのは、「優しさ」です。「優しさ」というのはいろんな言葉があると思うが、「人に優しい」「子育てに優しい」「環境に優しい」抽象的な言葉でもございます。そういったいろんな意味の中で、優しさ追求都市というのものもあるかなと考えました。ところが、「優しさ」というのは具体的なイメージを市民が持つのは、厳しいなと思います。先程、上野委員が言ったとおり抽象的ですけども、「幸せ度」というブータンの指標がありますが、「優しさ度」という指標がもしあるとすれば、「優しさ度向上のまち」という具体的な指標をイメージしながら取り組める目標ができるのではないかと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて滝沢委員お願いします。

(滝沢委員)

私は観光の分野になるので、そのへんが中心になりますが、将来像につきましては「長野市を訪れる全ての人が安心して楽しめるまち」というのを目指せばいいのではないかと考えています。これは日本人だけではなくて、外国人も含めてということです。その中には、市民も入っています。お越しいただく全ての方との触れ合いで市民も楽しめるということです。それについて、やるべきことはたくさんあると思います。公共サインの整備や、メニューや土産物屋の外国語の表示が必要になってくると思いますし、「安心して楽しめる」わけですから「安全」というのは絶対条件になってくる、それにはどうしたらいいのかとかです。全国で同じことをやっているわけですから、キーワードになってくるのは「ならでは」とか「らしさ」ではないか。それには文化や、食等いろいろなことが含まれてくるのではないかと思います。経済・産業の分科会では、やはりオリンピックシティというのが多分にあります。日本に3都市しかないオリンピックシティですから、市民はいろんなことを経験し、おもてなしを含めて醸成されていると思っています。それを完全に忘れ去っているのではないか。市外の人から見ると、アンケートにあった「歴史的街並みや自然環境に調和した」ということがありますが、まさに松代は日常に文化財があり、その隣に民家があり、全国的にも珍しい地区であると思います。やることはたくさんありまして、オリンピックを開催した都市なのに、外国人のための両替場所がないというのが実態です。そういうことを解決していくのが重要だと思っています。その中でお知らせですが、11月22日から長野駅の観光情報センターにおきまして、自動両替機の設置をいたします。12通貨を日本円に換えることができます。日本円は1万円から1円まででできます。これで、外国人が困っていることの一つを解決できるのかなと思います。こういうようなことを含めて、10年後までに何をやるのかを考えさせていただきました。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて長峯委員をお願いします。

(長峯委員)

長野にはたくさん魅力がある中で、長野市に住んでいるからこそ忘れていたり、当たり前になっていたりすることがあると思うので、新しく何かを作るのではなく、もう一度見つめ直して、「豊かな自然」とか「歴史」とか、オリンピック開催都市として国際的な視点も取り入れながら、10年間で成果を残すということであれば、長野の特長的なところを押し出していったほうがいいと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて藤森委員をお願いします。

(藤森委員)

いろんな町や村が統合されてもう 10 年経っていますが、そういうところで仕事をした経験から感じていることは、広がった地区の方々が長野市民であるという意識をまだ持てずにいるということです。10 年後には是非、長野市民だという意識でいけるといいと思いますが、どうしてそういう意識を持てないのかと考えた時に、公平感や満足感を味わえない部分があるのかなと思います。行政は一生懸命やっているが、そうした不満を感じることがあります。中山間地は、自然環境が宝かなと思います。個々の地区にバラバラ感があって、同じ長野市だけど、それぞれの地区がそれぞれ存在しているという感じがします。それぞれの地区は自分の地区にとっても誇りを持っていて、それは大切なことですが、それが長野市として一つにまとまって、一体感を持てるということが何かを変えるきっかけになるのではないかと感じています。そのために、個々の事情や課題を長野市民一人ひとりが知ること、行政もそれをアピールしていただいて、柔軟に各地区にあった施策が対応されることで、そうしたものが克服されて、自分の市であるという意識が生まれてくるのではないかと思います。

また、そろそろ芸術館がオープンしますが、県都であるからには「豊かさ」がとても大事だと思いますが、そういう感情を持つためには「文化・芸術」というのが大切だと思っていて、そういうものが一人ひとりのものになっておらず、一部の人の満足感にとどまっているのではないか、それが長野市一人ひとりの誇りとなっていくというような方向を目指していくことも大切かなと思います。今、中山間地にある実態は街でも見られるようになっていきます。中山間地が豊かになっていくことで、そこで取られた施策が街でも実施され、有効なものが考えられていくのではないかと思います。市民が一体感を持って、互いの様子を理解し合って、限られた予算をお互いに譲り合う気持ちを持って、工夫しあって豊かさを求めていく、というような姿が 10 年後に見られればよいなと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて堀江委員をお願いします。

(堀江委員)

まず、長野市のポテンシャル、長野市の強みを考えた中で、やはり、豊かな自然があるということと、善光寺や松代等の歴史を持っているということ、それからオリンピックを開催した都市であるということがあると思います。それを基にして、10 年後どうなっているかということ、人口減少社会や少子・高齢化や、一極集中が進んでいるのではないか、また、国際化が進み外国人がどんどん日本に入り込んでくるのではないか、災害が多発しているのではないか、こういったことが考えられるのではないかと思います。その中で、長野市がどういう方向に向かうのか、ということ整理した中で先程のポテンシャルの部分はどう活かすのかといった問題点を、人が集まりやすい都市という部分で何が必要なのかということ、情報文化というものがあると思います。今でも刻々と情報発

信の方法が変わっていますので、10年後はもっと違った情報発信が出てくると思います。そういう意味では地域からの発信力というのが非常に重要になってくると思います。それによって人が集まり、まちが賑わい、そういった都市が確立されていくのかなと考えています。

もう一つ、コミュニティの創生をしないとどんどん離れた人間社会になっていくのかなと思います。先般の白馬の地震で、隣に誰が住んでいるのかとか、コミュニティの必要性が証明されています。東京などでは、隣に誰が住んでいるのかわからないし、そんなまちになっては長野の特長がでないのではないかなと思っています。

もう一つは、「安心・安全」ということで、長野に来ればいろいろな意味で安心した生活ができたり、安全であるということをもっとピーアールをすべきと思います。

そういったキーワードを組み合わせる中で、長野の特長を表現した文章にしていけばいいと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。続いて柳沢委員お願いします。

(柳沢委員)

10年後、20年後、30年後まで根気強くまちを作っていかなければいけないと思っています。

まずは、少子・高齢化を見据えたネットワーク型のコンパクトシティがまちづくりのキーワードになってくると思います。この点長野市は先進的で、平成19年からこのネットワーク型のコンパクトシティの考え方を導入したまちづくりの提案をしています。しかしながら、まだ、そんなに簡単にまちが変わるわけではなく、途上であるということですが、苦しみながらも頑張って、今まで以上に拠点化を促進させる、あるいは拠点として作っていたものをまとめ集約するというを考えていかなければいけないと思います。拠点では、住むとか、働くとか、学ぶとか、楽しむ、ことができる機能が考えられますが、これを全て包含するのは長野駅を中心とした広域拠点だと思います。それ以外の所はそれぞれの特性を踏まえた上で、どれかを選択して機能を充実させるような整備をしていく必要があるのではないかと、あるいは長野市では観光拠点というものも設けられていますし、観光を楽しむことに特化している所や、新たに働く機能として産業拠点というのも設けていったらどうかと思います。

長野市では、中心市街地で歩行者優先化が進んでおります。そばにいて見ていると当たり前のように感じるかもしれませんが、長野駅から善光寺まで約2キロにわたる所を、一部ではありますが歩行者優先化をやっているというのは、全国的にも高い評価を得ているところです。こういった取組を進めているので、「歩けるまち」を更に進めてほしいと思います。歩くということは、人がいろいろなところに立ち寄りますので、まちが賑わいを取り戻していく可能性が高いのでこの取組を進めてほしいと思います。そして歩くことは健康に良く、逆に歩行距離が短いほど死亡率が高くなるという調査結

果もあります。ですから、長野に来て歩いてもらい、まちの賑わいと健康の増進をしていてもらいたいと思います。

働くという観点からは、若者にとって魅力のある産業を誘致してほしいなと思います。せっかく高速交通網が整備されていますので、知識産業や先端産業といったものを、地価の高い関東地域から長野市に誘致するような取組をしてほしいと思います。若者にとって魅力のある働き場所がないと、定着してもらえない、長野に来てもらえないと思います。大きな投資も必要なく長野に来てもらえるような産業を、高速交通網を利用して誘致できる政策を取ってもらいたいと思います。

それから、中山間地域では高齢化率が高まっております。小さな拠点を設ける必要がありますが、長野市の場合は幅広く合併して、非常に広域的にしかも点在するように中山間地ができております。しかしながら、公共交通ネットワークでそれを結び付けることができると思います。例えば、中条、七二会等ですが、一つの地域ごとに拠点を作るよりは、まとめたほうが効率的だと思います。そして、その拠点である程度の生活ができるような機能を整備をしていてほしいと思います。それから、拠点は相互に補完しあう関係にしていかなければいけない、だから公共交通のネットワークで結ばなければいけない、そのネットワークを作ると同時にそのネットワークが有効に機能するように道路ネットワークも整備して欲しい。道路ネットワークを作るにあたっては、土地利用と整合性を図っていかなければならない、もう一度道路ネットワークを整理してもらってコンパクトシティに寄与するような整備計画を立てて優先順位を付けて進めてもらいたいと思います。

公共交通には、乗り換え地点があります。結節点と言いますが、結節点では高齢者が戸惑いなく、乗り降りしやすく乗り換えやすくというユニバーサルデザインを考慮して作ってもらいたいと思います。公共交通はまちの黒字化を促進するツールと捉えて、土地利用と一体的に運用・運営してそれをまちづくりに活かしてもらいたいと思います。

土地利用の誘導ですが、まちなかに来街して、回遊して、滞在を促進するような都市機能の誘導、配置を行ってほしいと思います。コンパクトですから点在している居住地を集めていかないといけない。都市機能の誘導移転には時間がかかりますが根気よくやっていってもらうと同時に、空き家を有効に利用してもらいたい、そして都市部と中山間地の二地域居住や、外国人旅行者の民泊が促進されるようにしてもらいたいと思います。

居住地を移転させた後は、土地の緑化等促進するようにしてもらいたい。特に市街化調整区域は人口減少でコミュニティが保たれずに困っていますが、ここは厳しくしても災害が起きやすい所、安全に暮らせないような所に人を住ませない、という気持ちで進めていてもらいたい。

これからは、道路による地域の連絡というよりは、サイバーウェイということがキーワードになっております。買い物の場所、教育を受ける場所、働く場所がネットによって大きく変わります。ネットで奪い合いが行われていますので、長野市もうかうかしてられないと思います。長野市将来像のキーワードとしては、多様性のあるまち、活力

も必要、環境との調和、誰もが安心して暮らしながらコミュニティを保てるようなまちにしていく必要があると思います。

(三浦会長)

ありがとうございます。続いて山浦委員お願いします。

(山浦委員)

これから10年後、今10歳の子どもが20歳になります。また20歳の子どもが30歳になるわけですが、10年後は知らないよ、というような感じを受けます。皆がひとつにまとまらなければ、長野市っていったい何なのか、ということになってしまうと思います。

県外・市外のアンケートに、豊かな自然環境というのがありますが、我々は回りに山があつて当たり前、空気がおいしいのが当たり前と、当たり前になっていることが非常に多いと思います。こういう自然、祭や神社等の文化を子どもたちに教えていくことが、いずれ長野に帰ってくることに繋がると思います。これは我々がやっていかなければならないことだと感じました。

そして、皆さん大学なり県外に出て行ってしまいます。高齢化が進む中で「娘が帰って来ない、私も年だから誰が面倒を見てくれるのか」という心配をしている方がたくさんいます。

先程柳沢委員からありましたが、産業の拠点が長野市になれば、子どもたちが働く場所がない、という問題が非常に多いんだと思います。そういうことも考えながら、皆さん素晴らしい意見をお持ちなので、それをまとめて長野のまちを考えていければいいと思います。その中で、自然を活かして、赤ちゃんから高齢者までの人と人がつながり、昔のように気軽に子どもに声をかけられて、子どもがのびのび暮らせるようなまちにしていけばいいのかなと思います。皆さんの意見に賛成なので、私からは以上です。

(三浦会長)

たくさんのご意見ありがとうございます。

今日は自然が豊かだという話がありましたが、スイスの学者「文化景観」、「自然景観」という言葉の違いがわかるかという議論でしたが、カルチャーは耕すもの、つまり人がちゃんと耕して生活をしている景色、というのが「文化景観」です。我々はスイスの山がきれいだと言いますが、スイスは山の上まで耕して牛を飼ったりしていて、雑草などないわけです。だからきれいなのです。ところが日本の場合は、「手をつけるな」という考えで、雑草も生えるし、鳥獣害の増えて自然が壊れていくというわけです。中山間地の活性化もそうだが、手を入れないと「文化景観」「自然景観」が壊れていって豊かな自然に見えず、ジャングルみたいになるということかなと思っております。中山間地を含めて長野が豊かな地域になるには、ある意味で手をいれて、耕して自然をきれいに保つべきかなと思います。

いずれにしても、みんなが元気で仕事をする、山に入るということができていくまちでなくてはいけないのかなと思いました。

たくさんのキーワードをいただきましたが、これを事務局にうまくまとめていただきたいと思います。

それでは、これがたたき台としてどのように整理されてくるか、次回の審議会を楽しみにしたいと思っております。

(金井委員)

皆さんの前にお茶がありますが、これは必要ですか。提案ですが、夏は必要かと思いますが、冬の間は自分のボトルを持ってきていただいてお茶は出さないでいただきたいと思いますがどうですか。

(三浦会長)

税金の無駄遣いにならないように、というご提案だと思います。そのへんもご配慮お願いしたいと思います。

それではマイクをお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。委員の皆さまにも意見をいただきましてありがとうございました。この中から私達のほうで考えさせていただいて、ご提示させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

次回の日程ですが、12月18日(金)午後2時30分から、この防災市民センターの3階で開催し、総合戦略の策定に関しましてご審議いただく予定でおりますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、審議会を閉会いたします。ありがとうございました。